

[P.33 の後ろに追加]

C.遺伝子組換え食品とは

遺伝子組換え食品とは、ある生物の遺伝子を植物に組み込んだ食品である。遺伝子の**検知法の 1 つとして PCR 法**がある。**日本国内では商業的栽培は行われていないが、安全性未審査のものが国内で流通しないよう、食品衛生法により2001年4月から安全性審査が義務化された。安全性評価はアレルギー誘発性、有害物質の産生などの評価資料に基づき、食品安全委員会が行う。安全性の審査制度や表示義務は国により異なるため、輸出国で安全性審査を受けていても安全性が確認されていないものは輸入、販売などが禁止されている。**

[P.66 の後ろに追加]

C.自殺死亡率

戦後の自殺死亡率は、昭和33年をピークに以後は相対的に低い状態が続き、昭和58～61年ごろに上昇した後は低下傾向にあったものの、平成4年から再び上昇傾向にある。

自殺者の動機については、警察庁の「平成18年中における自殺の概要資料」を見ると表のとおりである。

性・年齢階級別に見た動機別自殺数の構成割合(%)平成18年(2006)

	自殺 死亡者数	構成割合(%)									
		総数	遺書あり								遺書 なし
			家庭	健康	経済・ 生活問題	勤務	男女	学校	その他	不詳	
総数	32,155	100.0	3.2	13.5	9.4	2.2	0.9	0.3	2.0	1.0	67.5
男	22,813	100.0	3.0	11.5	11.9	2.8	0.9	0.3	2.2	1.1	66.3
0～19歳	395	100.0	4.3	5.1	1.0	0.8	2.3	6.8	5.8	1.5	72.4
20～29	2,294	100.0	2.4	8.5	6.7	4.3	2.8	1.6	3.7	2.0	68.0
30～39	3,236	100.0	3.4	8.7	11.0	4.3	1.8	0.1	2.5	1.3	67.0
40～49	3,890	100.0	3.3	7.2	16.3	3.9	1.0	—	1.5	1.1	65.8
50～59	5,633	100.0	2.9	10.8	17.6	3.7	0.4	—	1.5	1.0	62.1
60歳以上	7,139	100.0	3.0	17.3	8.1	0.6	0.2	—	2.3	0.8	67.7
女	9,342	100.0	3.8	18.4	3.2	0.7	1.0	0.3	1.6	0.8	70.3
0～19歳	228	100.0	2.6	11.4	0.4	—	3.1	7.5	3.1	1.8	70.2
20～29	1,101	100.0	3.1	16.3	1.6	2.1	4.0	0.6	1.5	1.2	69.5
30～39	1,261	100.0	4.9	15.9	1.6	1.4	1.8	—	1.4	0.8	72.1
40～49	1,118	100.0	4.3	17.3	4.7	0.8	1.1	—	0.8	0.8	70.2
50～59	1,613	100.0	4.0	17.4	6.9	0.8	0.3	—	1.4	0.6	68.4
60歳以上	3,981	100.0	3.5	21.0	2.4	0.1	0.1	—	1.9	0.6	70.4

[P.112 4.1.12 の前に追加]

D.癌関連遺伝子の遺伝子産物

- **癌遺伝子**：変異することにより細胞を異常に増殖させ、癌の原因となる

遺伝子	遺伝子産物の機能
<i>erbB</i>	増殖因子受容体型チロシンキナーゼ
<i>ras</i>	GTP 結合タンパク質
<i>src</i>	細胞質チロシンキナーゼ

- **癌抑制遺伝子**：正常な状態で発癌を抑制しており、その機能が失われると、逆に細胞を増殖させ、癌の原因となる

遺伝子	遺伝子産物の機能
<i>p53, RB</i>	細胞周期制御
<i>APC</i>	シグナル伝達

[P.121 の後ろに追加]

G.アミノ酸系農薬(アミノリン酸系農薬)

1. グリホサート	$\begin{array}{c} \text{O} \\ \parallel \\ \text{HO}-\text{P}-\text{CH}_2\text{NHCH}_2\text{COOH} \\ \\ \text{OH} \end{array}$	<ul style="list-style-type: none">• 非選択性除草剤• 遺伝子組換え技術を用いた除草剤耐性ダイズと組み合わせることにより効果的な除草が可能となる
------------------	--	---

[P.157 の後ろに追加]

E.ヒートアイランド現象

- 都市部における**エネルギー消費の増大**、アスファルトなどの地面の舗装による水分蒸発によって起こる冷却効果の減少により、等温線を描くと都市部を中心とした「島」のように見える現象。気温の上昇による影響として、**熱中症の増加**、**光化学オキシダントの被害の増加**などがある。
- 緩和対策：人工**廃熱の低減化**、都市部の**緑化**など。